



若松町十丁目の自宅の焼け跡を見る女性

第3回 震災資料室展 おわる

人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-3
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第16号

① ② ③ ④

1 震災資料室展おわる
皆さんの声
2 アンケートより
3 寄贈資料等
4

四月一日から開催しました「震災資料室展」は十二日間の日程を無事に終えることができました。ありがとうございました。寄せられたアンケートには貴重な言葉が綴られていて、私共の作業の大切さを痛感しました。

引き続きご協力をお願いします。

また、今回の催しについてサンテレビで放映されました。

当時ジョイプラザ十二階に住んでいた上平京子さんが撮影された若松町四丁目が壊れ火の手が上がる時、そして全焼、焼けた跡の四枚綴りの写真が提供され、多くの関心が集まりました。

「EYE」ランドフォルテ
震災体験を風化させないために…

職員が庁舎内に「震災資料室」を開設した。全国から震災の記録や被災者の体験や記録を後世に残す重要な体験を風化させないため、昨年一月同区役所のために一般公開している。

河童さん神戸を語る

4月11日、長田元氣アップフェスタのイベントの1つとして、「少年H」がふるさと長田で語る、と題し、あのベストセラー小説「少年H」の著者である、妹尾河童さんによる講演がありました。

講演のあと、河童さんからお話をうかがうことができました。

「私たちは震災の資料を集め後世に伝える為の作業をしています。」

ここに河童さんが通っていた長楽小学校

森本タマエさんより平成七年二月頃に撮影された写真を寄贈していただきました。中央区にある弁護士会館に避難されていたそうです。避難所の様子、配給されていたお弁当、炊き出しの看板等です。



ありがとうございます

の資料をお持ちしました

「全国あちこちで沢山の戦争資料館がある。それらは感動をよんでいるか。広がりがあるか。」

この震災を風化させないように工夫しなければいけない。どうやったら実感を持て伝えられるか、再工夫が必要か。だ。

「少年H」の初版が平成7年1月17日になっていますね

「あの時、神戸が燃えていた。神戸の人たちは昭和20年も大変だった。それがフェニックスのように立ち上がった。今回も頑張っています。」

「神戸へもっと人が来てほしいと言ってい



るのですが

「今の神戸、どんどん復興していて表だっては見えにくくなっている。神戸へ来て、神戸へ来て、会いに来て。沖繩も、沖繩へ来て、沖繩へ来てと言うが、沖繩のことを考えるとなかなか行きにくい。一遊びにきてもいいけど震災も見てほしい」の方が。沖繩も同じだ。

復興長田元氣アップ展を

していただいて

震災後3年。当時の出来事を忘れた人は一人もいないでしょう。しかし、「事実」とは度々思い起こし、確認しながらそのアイデンティティを保っていかねばならないという宿命を持っています。この度の催しはその意味で大切なものであり、ビブレホールで行なっていただいたことを大変光栄に思います。

そして「事実」が、悲しくもなつかしい思い出とみんなが感じるときに本当に復興が達せられるものと思います。有り難うございました。

新長田勤労市民センター別館

ビブレホール 武部 弘毅

来場者の

声

「資料室展」に来場された方からの感想・意見の中から一部を紹介します。

この他にも多数の貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



「よくぞこれだけの貴重な資料を収集されました。今後ともこれらを後世にお伝えして欲しいと念願しています。」

(明石市・女・55才)

「涙がとまらない。(匿名・70才)」

「阪神地区以外の人々の脳裏からあの大災害の記憶が薄れつつある今日、被災者の我々がこの震災資料を目にして思い新たに、涙なくしては見られません。明石海峡大橋も明日開通します。神戸復興もあとひとふんばり、お互いに頑張りましょう。ありがとうございました。」

(長田区・男・82才)

「当時は大変でしたが、今では生活も落ち着いてきました。しかし、写真等を見ると当時を思い出し、よくも立派に復興したと思います。(須磨区・男・68才)」

「貴重な資料の展示、ご苦勞様です。」

(西宮市・男・50才)



「あの地獄のような毎日が思い出されません。公的資料がまだあるんでしょうか。(市・県の資料)・匿名」

「地震の明けの日より行方不明の友が心配で、それから行き先不明の友が次々に尋ねて来て下さり、夢のような思いです。本当に現在の気持ちは暗いような明るいような、一生懸命頑張つて来ましたが今良かったなあと思います。家ができた沢山の友は、唯一人だけ亡くなりましたが、皆揃いつつあり毎日毎日昔話が切ない有様です。人生は運命か、何か正しく生きれば幸せがくるようですね。(長田区・女・63才)」

「先週神戸三宮に着き、三宮周辺の復興ぶりを見て、震災から3年で、何事もなかったような街の賑わいに、ほっと安心したものでした。しかし、4月5日に長田区に入り、言葉を失う程驚いてしまいました。「三宮と長田の差は何だ」と考えさせられます。行政に責任を求めても栓ない話ですが、この長田区の現状を全国に発信し続けてほしいと思います。ただ、公園で無邪気に遊んでいる子供達、ハトに餌をあげているご老人達を見ると、この街の人々の心のかさを感じ、私の方が救われた気持ちになりました。今日は、ここを訪ねて良かったと思います。(長崎市・男・36才)」

「私も子供の頃、二五年間長田区に住んでおりました。震災の時は大変でした。知り合いの方を尋ねて避難所へ2、3度行ききました。今でもあの事を思い出すところわいです。神戸に住んで六〇年こんな事が起こるとは夢にも思っていませんでした。匿名」



「思いもよらぬ震災から月日が経ちいろいろな事がありました。少しずつ新しい街になっていく長田に期待し静かな日が来ることを望み、皆の努力を今さらながら感じるこの頃です。(長田区・女・56才)」

(長田区・女・68才)

「あの恐慌の阪神淡路大震災を風化させないために、水、電気、ガスのストップを乗り越えての助け合い、ボランティア活動を次の世代に伝える文書や映像の記録を大事に保管されておられることは大変意義のあることです。大変ご苦勞ですがよろしくお願いします。(須磨区・男・67才)」

「震災直後の2月5日頃から十数回東京と神戸を往復しています。震災の情報は教訓や現状を知る上でとても重要だと思えます。特に、神戸から東京など他の都市へ伝えるということ、若しくは東京などで神戸の情報を得るという時、確かに新聞、インターネットなどの手段もありますが、十分とはいえないと思います。私共も東京の小人数のグループで神戸の震災の情報データを収集・現在行なっていますが、まとめるに当たって、十分な情報と視点が定まっていないと反省しています。少なくともここに行けば震災の情報が手に入るという場があればうれしいです。(東京都・男・26才)」